は じ め に

本学では 2022 年度に全国のキャンパスで新学部の設置や改組を行い、新しい教育課程をスタートしました。2023 年度は、新しい体制のもとでの教育研究活動が2年目に入り、多彩な取り組みが各キャンパスで行われました。また、2023 年5月から新型コロナウイルス感染症が5類感染症へと移行されたため、学内の教育、研究、課外活動の多くをコロナ以前の対面形式での実施に戻すことができました。同時に、コロナをきっかけに導入したオンライン会議システム等を活用することによる業務効率の向上や、オンラインと対面を組み合わせることにより高い成果が期待できる教育・研究の実践など、コロナ前より進化した大学のあり方を目指して模索を続けています。

8月には、東海大学ドローンアカデミーを開講しました。ドローンアカデミーでは、国土交通省が認定するドローン操縦士技能証明の取得に必要な知識、技能を学ぶコースを開設し、ドローン操縦技能のほか、関連法規や気象に関する講義などを実施しています。

2023 年度は、国際交流や海外での活動も活発に行いました。本学独自の教育プログラムである海外研修航海も、2020 年度、2021 年度は中止し、2022 年度には国内航路で再開しましたが、2023 年度には、海外航路で実施することができました。研修団は、2024 年 2 月に清水港を出発、父島、マジュロ、ヤップ、宮古島をめぐり、無事に帰港しました。また、チャレンジプロジェクトの1つである「東海大学ソーラーカーチーム」も4年ぶりにオーストラリアで開催された世界大会「ブリヂストン・ワールド・ソーラー・チャレンジ 2023」に参加し、アクシデントにも負けずに完走し、5位でゴールしました。

研究面では、本学のマイクロ・ナノ研究開発センター、総合医学研究所、先進生命科学研究所の合同拠点である「次世代研究創成拠点」を 2023 年 1 月に設置しました。同拠点では医学、理学、工学、AI、情報学、経済学など多様な分野を横断し、社会での実用化にも資する研究を進めており、9月には若手・中堅研究者の研究紹介を行うシンポジウムを開催しました。

2023 年度には、事務組織も一部改組し、ユニバーシティビューローを学長室に改組し、ビーワンオフィスとキャンパスサポートオフィスの機能を移管し、これまで以上に機能的に大学全体の統括・調整・支援を行える体制にしました。またカレッジについても、業務の重複を減らしカレッジ制の長所をより活かすため、エンジニアリングカレッジとサイエンステクノロジーカレッジを、サイエンス・エンジニアリングカレッジへと統合しました。

本学は、公益財団法人大学基準協会による認証評価を、2024 年度に受審します。そのため、2023 年度には全学および学位プログラム単位での自己点検・評価を念入りに行い、全学および学部・研究科ごとに自己点検・評価報告書を作成しました。また、年報の本文にも記載している通り、全学的な内部質保証体制の確立に向け、内部質保証体制図や方針の改訂などを行いました。内部質保証体制の整備については、24 年度も引き続き取り組んでいく必要があります。

関係各位におかれましては、ぜひ本報告書をご一読いただき、今後の教育・研究活動の改善の

ためにご活用いただくようにお願いいたします。

2025 年 1 月

東海大学学長
松前　義昭